

## 福祉の風土づくりに向けて

～きずな夜学校～

9月7日(木)、若草小学校で『きずな夜学校』（美園・若草きずな共育推進協議会・登別市社会福祉協議会主催）の2回目の講座（全3回）が行われました。

『きずな夜学校』は、登別市社会福祉協議会の『きずな共育モデル事業』の一環として、福祉の風土づくりに向け、『暮らしと知恵』を学び高めるために、地域が主体となって開校しました。

この日は、鷺別中学校の校長で、日本教育カウンセラー協会上級教育カウンセラーでもある石垣則昭さんが講師となり『子育てが危ない』と題し、「コミュニケーションの原則はお互いが顔を見合わせる事です。相手のことを考えた会話がコミュニケーションです」と熱く語りました。

続いて美園・若草地区連合町内会長の佐藤逸夫さんが『町内会の底力』と題して「地域の方に夢を与えたくて活動しています」と若草町内会の運営方針や取り組みを力強く紹介していました。

2人の話は、参加者に共感の輪を広げました。



## 親子で楽しく運動しました ～親子であそぼう『ミニミニオリンピック』～



9月15日(金)、婦人センターで『親子であそぼう～ミニミニオリンピック～』（市主催）が行われました。

この催しは、楽しい運動遊びを通して、親子のコミュニケーションや体力づくりを図ってもらおうと、登別子育て支援センターが行ったもので、1歳から小学校入学前までの子どもとその保護者31組62人が参加しました。

参加者は、紅白に分かれて、『アリさんの引越し』や『あの木なんの木』などのリレー、『大きなお口で（パン食い競争）』『玉入れ』『宝物はなに？』など10種類の競技に挑戦。子どもたちの活躍に、会場から大きな歓声が上がっていました。

最後に、登別子育て支援センター職員手作りのメダルが贈られると、子どもたちは、うれしそうな表情を浮かべていました。

## いつまでも元気に暮らせるまちづくり ～ふれあいフェスティバル 2006のぼりべつ～

9月10日(日)、しんた21で『ふれあいフェスティバル2006のぼりべつ』（登別市社会福祉協議会主催）が開かれました。

この催しは、すべての市民が地域社会の一員として、安心して暮らせる『ふれあいと支えあい、心豊かな福祉社会』の実現を目指し、市内の福祉団体や企業の協力を得て、毎年行われているものです。

この日は、雨のため、しんた21の中での開催。ステージでは、手話を使ったゲームや身体障がい者デイサービス利用者によるカラオケ発表、購入したチケットの番号で景品が当たる抽選会などのほか、各部屋では、本の朗読や点字、ろうあ者を誘導するガイドヘルプ、バリアフリー車いすなどの体験コーナー、子育てサロンや昔の遊び体験なども行われました。

参加した方がたは、共に楽しみ・笑い・ふれあいながらのフェスティバルに、いつまでも元気に暮らすことができる福祉豊かなまちづくりを実感していました。

